

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 人間の尊厳と自立	授業の種類 講義(通信)	
授業担当者 小林・大泉	時間数 5	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>「人間の尊厳」を理解するためには、「尊厳」の内容を具現化することが必要であり、具体化していく過程を通して、介護を受ける人の尊厳を守ることの意義や配慮すべきことを、同じ人として学習する。さらに、自立・自律像の多面的理解を促し、自立・自律した生活を支える必要性や生活モデルを基盤とした生活支援の必要性について学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解する。 ○介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を身につける。 ○介護実践のために必要な人間の理解をする。 		
<p>[授業の内容・授業方法]</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、通信課題を解答させ、評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① <u>人間の尊厳と自立</u>(生活支援の考え方) ② <u>人間の尊厳と自立</u>(ノーマライゼーションについて) ③ <u>人権と尊厳と自立</u>(権利擁護について) 		
[使用テキスト・参考文献] 日本医療企画出版「実務者研修テキスト1」	[単位認定の方法及び基準] 試験やレポートの評価基準等 提出課題により評価する。評価C以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 社会の理解 I	授業の種類 講義(通信)	
授業担当者 小林・大泉	時間数 5	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を理解する。		
[授業全体の内容の概要] 介護保険制度の背景と目的、介護保険制度の見直しの背景、目的及び基本的視点について学習する。また、介護保険制度が、要介護高齢者等の生活の中で実際にどのように活用されているかについて知り、介護保険制度が、自立生活を支援するために必要な社会的な制度であることについて学習する。さらに、介護と密接に関連する医療関係者との連携に必要な専門職の役割、介護を実践していく上で必要な基礎知識を学習する。		
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ○介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。		
[授業の内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、通信課題を解答させ、評価する。		
① <u>介護保険制度の概要</u> ② <u>要介護認定とケアマネジメント</u> ③ <u>介護サービスの種類と内容、介護サービス事業者と施設</u> ④ <u>介護報酬、介護財源等</u>		
[使用テキスト・参考文献] 日本医療企画出版「実務者研修テキスト1」	[単位認定の方法及び基準] 試験やレポートの評価基準等 提出課題により評価する。評価C以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 社会の理解Ⅱ	授業の種類 講義(通信)	
授業担当者 小林・大泉	時間数 30	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程について理解する。また、我が国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。</p> <p>介護実践に必要な観点から、障害者総合支援制度や個人情報保護、成年後見制度等の基礎的知識を理解する。</p>		
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>個人と家族、個人と地域、個人と社会の関係性を知り、「自助」「互助」「共助」「公助」について学習する。</p> <p>日本国憲法が規定する生存権の性格を理解し、それを具体的に実現しようとする公的扶助等や社会保障制度が全ての国民の暮らしにとって必須であることを学ぶ。</p> <p>障害者総合支援制度が、障害のある人の生活の中で実際にどのように活用されているかについて学習する。</p> <p>人の権利を守るもの、中でも日常的な生活に密接に関わる施策が、自立生活を支援するために必要な社会的制度であることについて学習する。</p>		
<p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえることができる。 ○地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについての基本的な知識を習得している。 ○社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を習得している。 ○障害者総合支援法の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。 ○成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している。 		
<p>[授業の内容・授業方法]</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、通信課題を解答させ、評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① <u>社会と生活のしくみ・地域共生社会の実現に向けた制度や施策</u> ② <u>各国の介護と福祉の制度</u> ③ <u>障害者総合支援法</u> ④ <u>介護実践に関連する諸制度</u> 		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>日本医療企画出版「実務者研修テキスト1」</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] 試験やレポートの評価基準等 提出課題により評価する。評価C以上を合格とする。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本 I	授業の種類 講義(通信)	
授業担当者 小林・大泉	時間数 10	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えることを理解する。また、介護における安全やチームケア等について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通して学習する。介護実践の基本的姿勢について、ノーマライゼーションやICF、介護の倫理等を通して学習する。「その人らしさ」を大切にすること等を学び、尊厳を守る介護、自立に向けた介護について学習を深める。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>○介護福祉士の法的な定義や義務を踏まえ、介護予防や看取り、災害時等における介護福祉士の役割を理解している。</p> <p>○個別ケア、ICF、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。</p> <p>○介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。</p>		
<p>[授業の内容・授業方法]</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、通信課題を解答させ、評価する。</p> <p>① <u>介護福祉士の役割と機能</u></p> <p>② <u>尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開</u></p> <p>③ <u>介護福祉士の倫理</u></p>		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>日本医療企画出版「実務者研修テキスト2」</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] 試験やレポートの評価基準等 提出課題により評価する。評価C以上を合格とする。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本Ⅱ	授業の種類 講義(通信)	
授業担当者 小林・大泉	時間数 20	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えることを理解する。また、介護における安全やチームケア等について理解する。		
[授業全体の内容の概要] 安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実践を目指すために、ケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、そして介護従事者の健康管理等について学習する。 利用者が安心して生きがいの持てる生活が営める生活環境を整えることが可能となるよう、危機管理や関係職種間の連携のあり方等を学習する。		
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ○介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。 ○チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得している。 ○リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得している。 ○介護従事者の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得している。		
[授業の内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、通信課題を解答させ、評価する。 ① <u>介護を必要とする人の生活の理解と支援</u> ② <u>介護実践における連携</u> ③ <u>介護における安全の確保とリスクマネジメント</u> ④ <u>介護職員の健康管理と労働法規</u>		
[使用テキスト・参考文献] 日本医療企画出版「実務者研修テキスト2」	[単位認定の方法及び基準] 試験やレポートの評価基準等 提出課題により評価する。評価C以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) コミュニケーション技術	授業の種類 講義(通信)	
授業担当者 小林・大泉	時間数 20	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につける。		
[授業全体の内容の概要] 介護場面において適切な支援を行うためには、利用者や家族、他の専門職とのコミュニケーションが必要である。そのため、コミュニケーションの意義と目的を理解し、具体的な技法を学習する。また、介護におけるコミュニケーションのあり方について理解し、チームの一員としてのコミュニケーションの方法を学ぶ。		
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ○本人・家族との支援関係を構築し、意思決定を支援することができる。 ○利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。 ○チームマネジメント(組織の運営管理、人材管理、リーダーシップ・フォローアップ等)に関する知識を理解し活用できる。 ○状況や目的に応じた記録、報告、会議等での共有化ができる。		
[授業の内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、通信課題を解答させ、評価する。 ① コミュニケーションの基本的理解 ② <u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u> ③ <u>介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション</u>		
[使用テキスト・参考文献] 日本医療企画出版「実務者研修テキスト3」	[単位認定の方法及び基準] 試験やレポートの評価基準等 提出課題により評価する。評価C以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術 I	授業の種類 講義(通信)	
授業担当者 小林・大泉	時間数 20	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を身につける。		
[授業全体の内容の概要] 利用者がなじみのある環境のもとでいかにしてエンパワメントを引き出し、活用するか、自立支援に向けた実践方法について学ぶ。そのための生活を理解し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための方法を学習する。また、ICFの視点に基づいた介護方法について学ぶ。		
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ○生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。 ○ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施している。 ○自立に向けた生活支援技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排せつ、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を習得している。 ○居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の生活環境を整備する視点・留意点を理解している。		
[授業の内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、通信課題を解答させ、評価する。 ① <u>生活支援とICF</u> ② <u>ボディメカニクスの活用</u> ③ <u>生活支援技術の基本(移動・移乗、食事、入浴、清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)</u> ④ <u>環境整備、福祉用具活用等の視点</u>		
[使用テキスト・参考文献] 日本医療企画出版「実務者研修テキスト4」	[単位認定の方法及び基準] 試験やレポートの評価基準等 提出課題により評価する。評価C以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術Ⅱ	授業の種類 講義(通信)	
授業担当者 小林・大泉	時間数 30	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>利用者がなじみのある環境のもとでいかにしてエンパワメントを引き出し、活用するか、自立支援に向けた実践方法について学ぶ。そのための生活を理解し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための方法を理解する。また、ICFの視点に基づいた介護方法について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>○以下について、利用者の心身の状態に合わせた、自立に向けた生活支援技術を理解し、行うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境整備 ・移動移乗 ・食事 ・入浴、清潔保持 ・排せつ ・着脱、整容、口腔清潔 ・休息、睡眠 ・人生の最終段階における介護 ・福祉用具等の活用 <p>[授業の内容・授業方法]</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、通信課題を解答させ、評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① <u>利用者の心身の状態に応じた介護、福祉用具等の活用、環境整備(食事)</u> ② <u>利用者の心身の状態に応じた介護、福祉用具等の活用、環境整備(排泄)</u> ③ <u>利用者の心身の状態に応じた介護、福祉用具等の活用、環境整備(移動・移乗)</u> ④ <u>利用者の心身の状態に応じた介護、福祉用具等の活用、環境整備(入浴・清潔保持、口腔清潔)</u> ⑤ <u>利用者の心身の状態に応じた介護、福祉用具等の活用、環境整備(着脱、整容)</u> ⑥ <u>利用者の心身の状態に応じた介護、福祉用具等の活用、環境整備(睡眠、休息)</u> ⑦ <u>利用者の心身の状態に応じた介護、福祉用具等の活用、環境整備(終末期)</u> 		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>日本医療企画出版「実務者研修テキスト4」</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] 試験やレポートの評価基準等 提出課題により評価する。評価C以上を合格とする。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護過程 I	授業の種類 講義(通信)	
授業担当者 小林・大泉	時間数 20	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を身につける。		
[授業全体の内容の概要] 介護過程の展開方法を学習し、理解することは、利用者に対する質の高いサービス提供につながる。質の高いサービスを提供するためには、その意義や目的、目標を明確にして計画をする必要がある。また、その計画を実践し、評価することも大切である。その他、情報共有や多職種との連携も重要であり、これらの技法について学ぶ。		
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ○介護過程の目的、意義、展開等を理解している。 ○介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。 ○チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、他の職種の役割を理化している。		
[授業の内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、通信課題を解答させ、評価する。		
① <u>介護過程の基礎的理解</u> ② <u>介護過程の展開</u> ③ <u>介護過程とチームアプローチ</u>		
[使用テキスト・参考文献] 日本医療企画出版「実務者研修テキスト5」	[単位認定の方法及び基準] 試験やレポートの評価基準等 提出課題により評価する。評価C以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護過程Ⅱ	授業の種類 講義(通信)	
授業担当者 小林・大泉	時間数 25	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を身につける。		
[授業全体の内容の概要] 利用者の状態を設定した事例を通して、介護過程Ⅰで学習した介護過程の展開方法を理解する。さらに展開する中で、安全確保や事故防止の視点、家族支援、他機関との連携の重要性を理解する。		
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ○情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、通信課題を解答させ、評価する。		
① <u>利用者の状態(障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等)について事例を設定し、介護過程を展開させる。</u>		
② <u>観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携等についても考察させる。</u>		
[使用テキスト・参考文献] 日本医療企画出版「実務者研修テキスト5」	[単位認定の方法及び基準] 試験やレポートの評価基準等 提出課題により評価する。評価C以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護過程Ⅲ	授業の種類 講義(面接授業/スクーリング)	
授業担当者 小林・大泉	時間数 45	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を身につける。		
[授業全体の内容の概要] 多様な事例を通して、これまでに学んだ知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況に応じた介護過程の展開を実際に行う。		
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ○実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる。 ○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護(アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等)を提供できる。 ○介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止・家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。 ○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。		
[授業の内容・授業方法] 1日目(8時間)介護過程の基礎知識 (1時間)知識等の習得度評価 2～4日目(各9時間)事例を使った介護過程の展開の実際 5日目(6時間)事例を使った介護過程の展開の実際 (3時間)介護技術の評価 ① <u>介護過程の展開の実際</u> 多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識・技術を総合的に活用した分析力・応用力を評価する。 ② <u>介護技術の評価</u> 介護技術の原理原則の習得・実践とともに、知識・技術を総合的に活用した判断力・応用力を評価する。		
[使用テキスト・参考文献] 日本医療企画出版「実務者研修テキスト5」		[単位認定の方法及び基準] 試験やレポートの評価基準等 出席と試験により評価する。評価C以上を合格とする。

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) こころとからだのしくみ I	授業の種類 講義(通信)	
授業担当者 小林・大泉	時間数 20	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。		
[授業全体の内容の概要] 人間のこころとからだのしくみを理解し、より質の高いサービスの仕方について学ぶ。そのために、こころとからだのしくみに関する諸理論や、感情のしくみ、からだのしくみ、身じたく、排泄、食事、睡眠等について学ぶ。		
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ○介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を習得している。		
[授業の内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、通信課題を解答させ、評価する。		
<u>介護に関係した身体の仕組みの基礎的な理解</u> ・ <u>移動・移乗</u> ・ <u>食事</u> ・ <u>入浴・清潔保持</u> ・ <u>排泄</u> 、 ・ <u>着脱、整容、口腔清潔等</u> ・ <u>休息・睡眠</u>		
[使用テキスト・参考文献] 日本医療企画出版「実務者研修テキスト7」	[単位認定の方法及び基準] 試験やレポートの評価基準等 提出課題により評価する。評価C以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) ころとからだのしくみⅡ	授業の種類 講義(通信)	
授業担当者 小林・大泉	時間数 60	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。		
[授業全体の内容の概要] 人間のころとからだのしくみを理解し、より質の高いサービスの仕方について学ぶ。そのために、ころとからだのしくみに関する諸理論や、感情のしくみ、からだのしくみ、ボディメカニクス、身じたく、排泄、食事、睡眠等について学ぶ。また、多職種との連携の方法についても学ぶ。		
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ○人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を習得している。 ○生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を習得している。 ○身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、観察・アセスメント、関連する職種との連携が行える。		
[授業の内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、通信課題を解答させ、評価する。		
① <u>人間の心理</u> ② <u>人体の構造と機能</u> ③ <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護における観察・アセスメントのポイント、連携等の留意点</u> ・ <u>移動移乗</u> ・ <u>食事</u> ・ <u>入浴、清潔保持</u> ・ <u>排泄</u> ・ <u>着脱、整容、口腔清潔</u> ・ <u>休息、睡眠</u> ・ <u>終末期</u>		
[使用テキスト・参考文献] 日本医療企画出版「実務者研修テキスト7」	[単位認定の方法及び基準] 試験やレポートの評価基準等 提出課題により評価する。評価C以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 発達と老化の理解 I	授業の種類 講義(通信)	
授業担当者 小林・大泉	時間数 10	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 発達の観点から、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を身につける。		
[授業全体の内容の概要] 介護に必要なこととからだのしくみの変化と日常生活への影響を学ぶ。		
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ○老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ○老化に伴う身体機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。		
[授業の内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、通信課題を解答させ、評価する。		
① <u>老化に伴うこころの変化と日常生活への影響</u> ② <u>老化に伴うからだの変化と日常生活への影響</u>		
[使用テキスト・参考文献] 日本医療企画出版「実務者研修テキスト6」	[単位認定の方法及び基準] 試験やレポートの評価基準等 提出課題により評価する。評価C以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 発達と老化の理解Ⅱ	授業の種類 講義(通信)	
授業担当者 小林・大泉	時間数 20	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 発達の観点から、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を身につける。		
[授業全体の内容の概要] 介護に必要なことからだのしくみを学び、人間が生まれてから高齢になるまでの過程を理解し、加齢に伴う障害や疾病について学ぶ。さらに、高齢者の身体面と精神面の関係、身体機能と精神機能の変化についての知識を深める。		
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ○ライフサイクル各期の発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。 ○老年期の発達課題、心理的な課題(老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等)と支援の留意点について理解している。 ○高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。		
[授業の内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、通信課題を解答させ、評価する。		
① <u>人間の成長と発達</u> ② <u>老年期の発達・成熟と心理</u> ③ <u>高齢者に多い症状・疾病等と留意点</u>		
[使用テキスト・参考文献] 日本医療企画出版「実務者研修テキスト6」	[単位認定の方法及び基準] 試験やレポートの評価基準等 提出課題により評価する。評価C以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 認知症の理解 I	授業の種類 講義(通信)	
授業担当者 小林・大泉	時間数 10	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を理解する。		
[授業全体の内容の概要] 認知症ケアの歴史や理念を学ぶとともに、認知症の症状や行動障害等について学ぶ。		
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ○認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。 ○認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ○認知症の人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している。		
[授業の内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、通信課題を解答させ、評価する。		
① <u>認知症ケアの理念</u> ② <u>認知症による生活障害、心理・行動の特徴</u> ③ <u>認知症の人や家族へのかかわり・支援の基本</u>		
[使用テキスト・参考文献] 日本医療企画出版「実務者研修テキスト6」	[単位認定の方法及び基準] 試験やレポートの評価基準等 提出課題により評価する。評価C以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 認知症の理解Ⅱ	授業の種類 講義(通信)	
授業担当者 小林・大泉	時間数 20	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を理解する。		
[授業全体の内容の概要] 医学的側面からみた認知症を学ぶ。さらに、家族支援や地域との連携、多職種協働、認知症サポーター、地域ボランティア等によるケアの方法を学ぶ。		
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ○代表的な認知症(若年性認知症を含む)の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。 ○認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、本人主体の理念に基づいた支援ができる。 ○地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。		
[授業の内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、通信課題を解答させ、評価する。 ① <u>医学的側面からみた認知症の理解</u> ② <u>認知症の人への支援の実際</u>		
[使用テキスト・参考文献] 日本医療企画出版「実務者研修テキスト6」	[単位認定の方法及び基準] 試験やレポートの評価基準等 提出課題により評価する。評価C以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 障害の理解 I	授業の種類 講義(通信)	
授業担当者 小林・大泉	時間数 10	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を理解する。		
[授業全体の内容の概要] 障害をもっている人と持っていない人の違いを理解するとともに、障害の捉え方、ICF、様々な障害の種類と原因、特性について学ぶ。		
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ○障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。 ○障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ○障害のある人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している。		
[授業の内容・授業方法] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、通信課題を解答させ、評価する。		
① <u>障害者福祉の理念</u> ② <u>障害による生活障害、心理・行動の特徴</u> ③ <u>障害のある人や家族へのかかわり・支援の基本</u>		
[使用テキスト・参考文献] 日本医療企画出版「実務者研修テキスト6」	[単位認定の方法及び基準] 試験やレポートの評価基準等 提出課題により評価する。評価C以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 障害の理解Ⅱ	授業の種類 講義(通信)	
授業担当者 小林・大泉	時間数 20	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>障害の医学的側面について学ぶ。また、地域の連携や障害者の家族、多職種協働について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>○さまざまな障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を習得している。 ○障害の特性、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 ○地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</p> <p>[授業の内容・授業方法]</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、通信課題を解答させ、評価する。</p> <p>① <u>医学的側面からみた障害の理解</u> ② <u>障害の特性に応じた支援の実際</u></p>		
[使用テキスト・参考文献] 日本医療企画出版「実務者研修テキスト6」	[単位認定の方法及び基準] 試験やレポートの評価基準等 提出課題により評価する。評価C以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 医療的ケア	授業の種類 講義(通信)・演習(面接授業/スクーリング)	
授業担当者 高橋	時間数 講義:50 演習:規定回数	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。		
[授業全体の内容の概要] 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を学ぶ。		
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ○医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。		
[授業の内容・授業方法]		
通信 テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、通信課題を解答させ、評価する。		
① <u>医療的ケアに必要な基礎知識</u>		
スクーリング		
実技演習		
① <u>喀痰吸引の基礎知識と実際の手順の確認</u> 実技演習5回以上(口腔、鼻腔、気管カニューレ内部)		
② <u>経管栄養の基礎知識と実際の手順の確認</u> 実技演習5回以上(胃ろう又は腸ろう、経鼻経管栄養)		
③ 救急蘇生法演習(1回以上)		
[使用テキスト・参考文献] 日本医療企画出版「実務者研修テキスト8」		[単位認定の方法及び基準] 試験やレポートの評価基準等 通信:提出課題により評価する。評価C以上を合格とする。 スクーリング:出席と実技により評価する。 ※通信・演習(喀痰吸引・経管栄養)、両方の合格により科目の修了を認定する。